

## - 調査概要 -

結婚情報サービス「O-net（オーネット）」（株式会社オーエムエムジー 本社：大阪市 代表取締役社長：大内邦春）が、2007年1月に成人式を迎える全国の独身男女計587名を対象に、結婚・出産・育児・大人・社会参加意識などについて調査をおこなったもので、今回12回目となります。

調査名 : オーネット「2007年新成人587人の意識調査」  
調査地域 : 全国  
調査対象 : 1986年4月2日 1987年4月1日生まれの未婚男性・未婚女性

調査方法 : インターネット調査会社(株式会社クロスマーケティング)モニターによるクローズ調査  
調査期間 : 2006年12月1日(金) - 12月4日(月)

調査主体 : O-net(オーネット)  
サンプル数 : 587人 (男性287人 女性300人)

表記の無い場合の単位は%です。調査結果の数値は小数点第2位以下を四捨五入にしているため、合計で100%にならないことがあります。

出版物・印刷物等、本資料をご使用になる場合には、

- 1) **オーエムエムジー 渉外広報室宛**(tel : 03 - 5413-9808 mail : [press@onet.co.jp](mailto:press@onet.co.jp))**連絡のうえ、**
- 2) **“結婚情報サービス「オーネット」(株式会社オーエムエムジー)調査”**  
と明記くださいますようお願い申し上げます。

## - 目次 -

### 2007 年新成人の現在

今興味のあること 仕事・アルバイト お金 インターネット  
家庭に精神的豊かさを感じている 65.5%  
親密な付き合いは苦手 51.8%  
自殺を考えたことがある 39.5%

### 2007 年新成人の親子・人間関係

親子関係は良好  
いじめがあっても周囲のおとなは何もしてくれないと思う 76.0%.

### 2007 年新成人の大人意識

20歳の自分を大人だと思っていない 78.9%  
成人式参加は横ばい 62.0% 選挙権を得てからの初めての選挙に参加は大きく低下 48.7%

### 2007 年新成人の仕事意識

年功序列よりも能力主義に徹したほうが良い 3年連続低下 07年は31.5%  
フリーターにはなりたくない 58.8%

### 2007 年新成人の恋愛意識

交際相手がいる 28.8% その相手と結婚したい 53.8%(28.8%のうち) 交際状況は低下 交際濃度は上昇  
交際相手募集中も低下  
交際相手がほしい理由は、いれば楽しい 81.5% ほしくない理由は、自分ひとりで楽しい 66.4%  
交際相手と出会う努力 何をしたらよいかかわからない  
交際相手には安心感を求める 75.0%  
やさしいと見られたい男性 安心感があると見られたい女性

### 2007 年新成人の結婚意識

結婚したい 79.4% 結婚意向は減少  
早く結婚したい 19.6% 結婚したくない 20.6% ともに昨年よりは高まる  
結婚したい理由 親から独立したい 12.4%  
安心感 フィーリングは言うまでもなく大切なこと 加えて結婚相手は自分のことを一番好きでいてくれる  
結婚をしたくない理由 男性はお金 自信のなさ 女性はひとりのほうが気楽

### 2007 年新成人の恋愛と結婚に関する意識

恋愛は重要 63.2%  
結婚することにメリットを感じる 67.0%  
恋愛と結婚とは違う 40.9%

### 2007 年新成人の子ども観

将来子どもがほしいと思う 75.1% 大きく後退  
希望子ども数の平均は男性2.31人 女性2.17人  
子どもを守るのは親の責任 91.3%

### 2007 年新成人の今の気持ちと未来

格差はあってもよい 男性54.4% 女性26.7%  
今の日本の問題は、親の、子どもへの体罰・暴力が多いこと 55.4%  
親世代は超えられない?  
フリーターはますます増える  
25歳の自分 仕事をばりばりしている 47.2%  
人は人、自分は自分 55.7%

## 2007年新成人の現在

調査対象者、07年新成人587人(男性287人 女性300人)のプロフィールは次のとおり。誕生日は1986年4月2日から1987年4月1日までで、2007年に成人となる。学生が89.0%、親と同居が63.0%を占めている。

職業	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	100%	100%	100%	587人	287人	300人
大学生	70.7	77.0	64.7	415	221	194
短大・高専の学生	6.0	3.8	8.0	35	11	24
専門学校生	10.4	7.3	13.3	61	21	40
予備校生	1.7	2.8	0.7	10	8	2
その他の学生	0.2	0.3	0.0	1	1	0
正規就労者	2.9	2.4	3.3	17	7	10
自営業・自由業	0.2	0.3	0.0	1	1	0
派遣・パート・嘱託	0.7	0.3	1.0	4	1	3
アルバイト	5.1	3.1	7.0	30	9	21
無職	1.0	1.4	0.7	6	4	2
求職中	1.0	0.7	1.3	7	3	4

きょうだい数	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	100%	100%	100%	587人	287人	300人
1人(あなただけ)	10.2	9.8	10.7	60	28	32
2人(あなたを含めて)	49.7	50.2	49.3	292	144	148
3人(あなたを含めて)	33.4	32.8	34.0	196	94	102
4人以上(あなたを含めて)	6.6	7.3	6.0	39	21	18

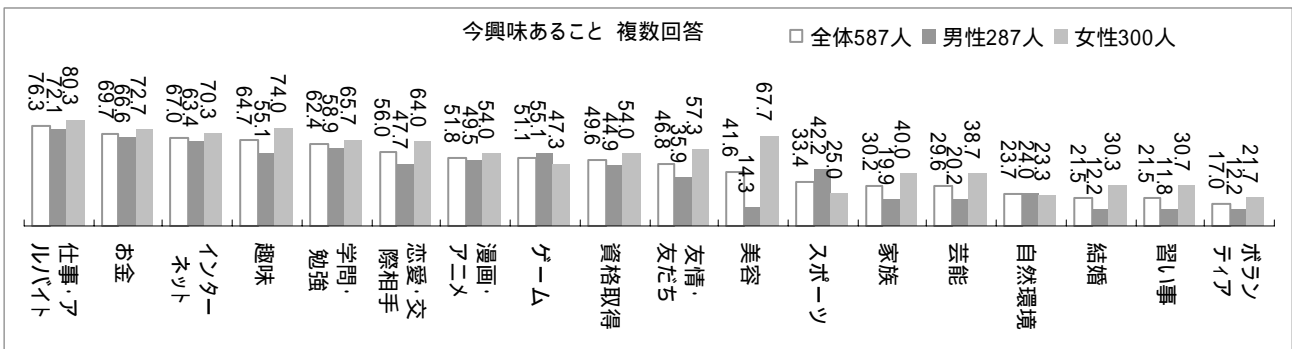
現在の住まい	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	100%	100%	100%	587人	287人	300人
親もとで暮らしている	63.0	61.3	64.7	370	176	194
親以外の家族またはご親戚と同居	2.6	2.1	3.0	15	6	9
友人、ルームメート、同僚などと同居	2.2	2.4	2.0	14	7	7
1人住まい	32.0	34.1	30.0	188	98	90

仕事・アルバイトの月収	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	100%	100%	100%	587人	287人	300人
無収入	28.6	29.6	27.7	168	85	83
5万円未満	38.0	37.3	38.7	223	107	116
5万円 - 10万円未満	25.6	23.3	27.7	150	67	83
10万円 - 20万円未満	6.6	8.0	5.3	39	23	16
20万円 - 30万円未満	0.3	0.3	0.3	2	1	1
30万円 - 40万円未満	0.0	0.0	0.0	0	0	0
40万円 - 50万円未満	0.0	0.0	0.0	0	0	0
50万円以上	0.9	1.4	0.3	5	4	1

ご両親について	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	100%	100%	100%	587人	287人	300人
ご両親とも健在で、離婚もされていない	89.9	88.5	91.3	528	254	274
お父様は死別された	2.9	2.8	3.0	17	8	9
お母様は死別された	0.5	1.0	0.0	3	3	0
ご両親は離婚され、お父様にひきとられた	1.2	1.0	1.3	7	3	4
ご両親は離婚され、お母様にひきとられた	5.3	6.6	4.0	31	19	12
ご両親とも死別された	0.0	0.0	0.0	0	0	0
その他	0.2	0.0	0.3	1	0	1

### 今興味のあること 仕事・アルバイト お金 インターネット

07年新成人の関心事は「仕事・アルバイト」(76.3% 男性72.1% 女性80.3%)、「お金」(69.7% 男性66.6% 女性72.7%)、「インターネット」(67.0% 男性63.4% 女性70.3%)である。女性では「趣味」、「美容」も高い。学生が89%を占めるなかで、「学問・勉強」、「恋愛・交際相手」、「友情・友だち」はこの3項目よりも低い。



2000年新成人は、「恋愛・交際相手」(51.5% 男性47.5% 女性55.5%)、「趣味」(49.0% 男性47.0% 女性51.0%)が1位、2位。「お金」(45.5% 男性48.0% 女性43.0%)は3位であり、「仕事・アルバイト」(26.8% 男性29.5% 女性24.0%)は6位であった(当時は、インターネットは選択肢になく、この比較では除外)。興味のあることの順位は変化していることが窺える。

07年新成人587人	現在の関心 複数回答	00年新成人400人
1位	76.3 仕事・アルバイト	6位
2位	69.7 お金	3位
3位	64.7 趣味	2位
4位	62.4 学問・勉強	7位
5位	56.0 恋愛・交際相手	1位
6位	49.6 資格取得	8位

07年新成人587人	現在の関心 複数回答	00年新成人400人
7位	33.4 スポーツ	5位
8位	30.2 家族	11位
9位	29.6 芸能	4位
10位	23.7 自然環境	10位
11位	21.5 結婚	9位
12位	21.5 習い事	11位



## 2007年新成人の親子・人間関係

### 親子関係は良好

07年新成人(父親、母親のどちらかがいる人のみ 586人 男性287人 女性299人)の親との現在の関係を見ると、「親はやさしく、あたたかい」(84.1% 男性82.6% 女性85.6%)、「親を信頼している」(82.9% 男性81.5% 女性84.3%)、「親を尊敬している」(74.3% 男性72.5% 女性83.9%)と親子関係は良好である。

また、「まだ親がいないと生活できない」(74.2% 男性66.5% 女性81.6%)、「小遣いをもらっている」(54.5% 男性51.2% 女性57.5%)と、学生が89%を占める彼らは、まだ親に依存している様子が見受けられる。

しかしながら「就職後も親に経済的に甘えていたい」は16.9%(男性14.2% 女性19.4%)となっており、今は親に依存しているものの、「大人としての自立」は考えていることも窺えた。

「両親は自分を理解してくれる」も70.6%(男性71.5% 女性69.9%)と高い。しかし、「親に何でも相談できる」は39.9%(男性34.5%、女性45.1%)と低くなっている。

親子関係	全体	男性	女性
はい いいえ の選択肢で「はい」との回答率	586人	287人	299人
親は、あなたに対してやさしくあたたかいほうだ	84.1	82.6	85.6
あなたは親を信頼している	82.9	81.5	84.3
食事は家庭で作ったものが多い	79.9	75.6	83.9
あなたは親を尊敬している	74.3	72.5	75.9
あなたはまだ親がいないと生活ができない	74.2	66.5	81.6
親は、あなたのことを理解している	70.6	71.5	69.9
親は、あなたにいろいろなことを話すほうだ	70.3	67.2	73.2
あなたは、親の仕事についてよく知っている	68.4	67.2	69.6
親の人生は、あなたからみて生きがいがあるものだ	59.2	55.8	62.5
親から小遣いをもらっている	54.4	51.2	57.5
あなたは、親のような大人になりたいと思っている	51.5	52.2	50.9
自分の誕生日には毎年親に祝ってもらっている	49.1	42.5	55.5
あなたは親に何でも相談できる	39.9	34.5	45.1
親は、あなたに対して厳しいほうだ	37.7	35.5	39.8
就職しても親には精神的に甘えていたい	36.8	25.1	48.1
親は、あなたの仕事や勉強・成績についてうさく言うほうだ	33.6	34.1	33.1
家族のだんらんや会話が少ない	28.1	27.5	28.8
就職しても親には経済的に甘えていたい	16.9	14.2	19.4

### いじめがあっても周囲のおとなは何もしてくれないと思う 76.0%.

2006年後半は「いじめ問題」がクローズアップされた。07年新成人の学童期にはいじめ現象は蔓延していたことが推測される。彼ら全員(587人)に、「いじめ」について聞いたところ、76.0%が「周囲のおとなは何もしてくれないと思う」と回答した。「いじめを受けたことがある」46.5%、「したことがある」37.8%、「いじめに誘われたら断れないのではないかと思う」35.8%と被害者と加害者が混合している状況である。「いじめで自殺を考えたことがある」は13.3%。政治の世界でも対策を模索しているが、「今後改善されると思う」は1割(10.4% 男性12.9% 女性8.0%)と少なかった。

いじめについて	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
はい いいえ 回答したくない の選択肢	586人	287人	299人	586人	287人	299人	586人	287人	299人
	はい			いいえ			回答したくない		
私は「いじめ」を受けたことがある	46.5	38.3	54.4	51.3	58.9	44.0	2.2	2.8	1.6
私は「いじめ」をしたことがある	37.8	35.8	39.7	59.8	61.3	58.4	2.4	2.9	1.9
私の周囲で「いじめ」が行われていたことがある	73.8	70.0	77.3	24.7	27.9	21.7	1.5	2.1	1.0
一般的に、今の学校や職場は「いじめ」を助長する環境になっていると思う	63.5	55.8	71.0	33.9	40.4	27.7	2.6	3.8	1.3
一般的に、「いじめ」があっても周囲のおとなは何もしてくれないと思う	76.0	72.1	79.6	21.8	24.8	19.0	2.2	3.1	1.4
もし私が「いじめ」を受けたら、誰かに相談すると思う	46.8	43.2	50.3	51.1	54.0	48.4	2.1	2.8	1.3
もし私が「いじめ」の仲間に誘われたら、断れないのではないかと思う	35.8	38.0	33.7	60.7	56.5	64.7	3.5	5.5	1.6
一般的に「いじめ」を受けるのは、当人に非があるのだと思う	28.3	27.5	29.0	66.4	65.8	67.0	5.3	6.7	4.0
私は「いじめ」で、自殺を考えたことがある	13.3	10.4	16.0	78.3	79.1	77.7	8.4	10.5	6.3
現在「いじめ」問題がクローズアップされてきたので、今後この問題は改善されると思う	10.4	12.9	8.0	83.7	80.1	87.0	5.9	7.0	5.0

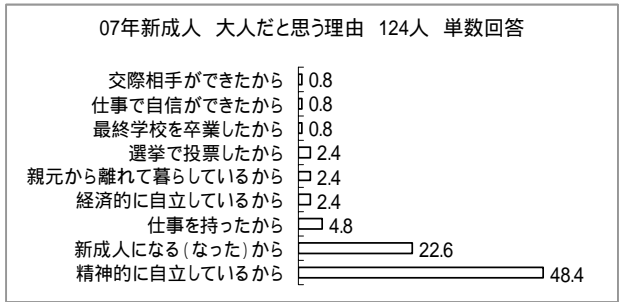
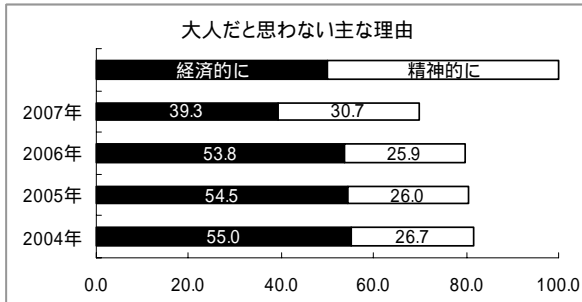
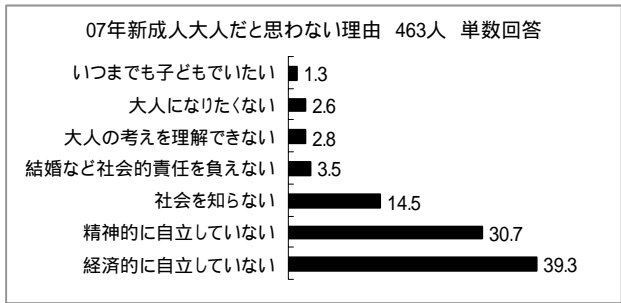
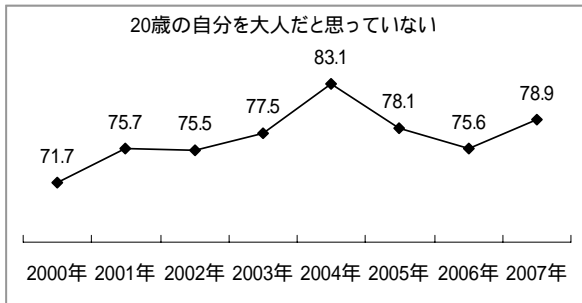
**2007年新成人の大人意識**

**20歳の自分を大人だと思っていない 78.9%**

新成人587人に「20歳の自分を「大人」だと思っているか」と聞いたところ、全体の78.9%が「思っていない」と回答した。2004年時で最高値に達して以来2年間減少傾向にあったが、今調査では微増した。

「自分を大人だと思っていない」との回答者(全体463人 男性212人 女性251人)にその「最大の理由」を聞くと、「経済的に自立していないから」が39.3%を占め(男性42.9% 女性36.3%)、次いで、「精神的に自立していないから」30.7%(男性27.8% 女性33.1%)と回答している。今調査では、経済面から精神面の欠如に理由がやや移行した。

「自分を大人だと思っている」との回答者は124人(男性75人 女性49人)。約半数48.4%が「精神的に自立しているから」をその理由にあげている(男性53.3% 女性40.8%)。調査対象者の89%を学生が占めるため「経済的に自立しているから」は非常に少ない。



全員(587人)に「大人になる時期」を聞くと「自活できるようになったら」が60.3%となり、2番目の「就職したら」は17.0%とやや遅めの時期を設定している。

**成人式参加は横ばい 62.0% 選挙権を得てからの初めての選挙に参加は大きく低下 48.7%**

「成人式に参加する」と考えている新成人は62.0%。2006年新成人とほぼ同値である。

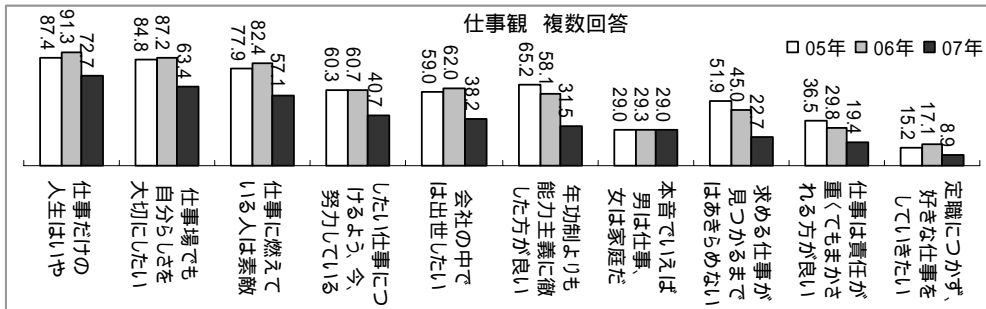
一方、20歳になったことで得られる選挙権について聞くと、「選挙権を得てからの初めての選挙」は、48.7%が「参加する(した)」と回答。昨年最高値となったが、今回は大きく低下(16.4ポイント)した。

	20歳の自分を大人だと思っていない			成人の式典には参加する			初めての選挙には参加する		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	587人	387人	300人	587人	387人	300人	587人	387人	300人
<b>2007年新成人</b>	<b>78.9</b>	<b>73.9</b>	<b>83.7</b>	<b>62.0</b>	<b>60.3</b>	<b>63.7</b>	<b>48.7</b>	<b>51.6</b>	<b>46.0</b>
2006年新成人	75.6	69.4	81.8	60.9	60.1	61.6	65.1	65.5	64.7
2005年新成人	78.1	75.5	80.6	65.2	66.5	63.9	60.0	58.7	61.3
2004年新成人	83.1	76.6	89.8	56.3	53.2	59.5	61.3	61.7	60.8
2003年新成人	77.5	68.0	87.0	64.5	62.0	67.0	57.5	61.0	54.0
2002年新成人	75.5	68.0	83.0	66.5	70.5	62.5	-	-	-
2001年新成人	75.7	67.0	84.5	-	-	-	-	-	-
2000年新成人	71.7	66.0	77.5	-	-	-	-	-	-

年功序列よりも能力主義に徹したほうが良い 3年連続低下 07年は31.5%

07年新成人(587人)の多数が「仕事だけの人生は嫌だ」(72.7% 男性65.9% 女性79.3%)、「仕事場でも自分らしさを大切にしたい」(63.4% 男性54.4% 女性72.0%)と回答。3年間の推移を見ると値は下がっているものの、1位、2位の順位は変わらない。

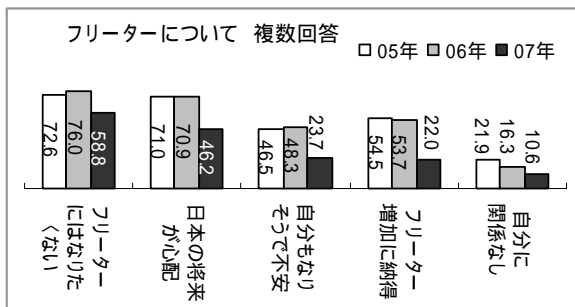
「年功制より能力主義に徹した方がよい」(31.5% 男性31.7% 女性31.3%)、「自分の求める仕事が見つかるまではあきらめない」(22.7% 男性20.2% 女性25.0%)、「仕事は責任が重くてもまかされるほうが良い」(19.4% 男性22.3% 女性16.7%)は3年連続減少した。



フリーターにはなりたくない 58.8%

58.8%(男性58.9% 女性58.7%)が「フリーターにはなりたくない」と回答した。仕事観でも「定職につかず、好きな仕事をしていきたい」は8.9%(男性5.9% 女性11.7%)にすぎず、フリーターになることを恐れていることが窺える。

また、「望む会社でなくとも正規の仕事が得られれば、妥協しても就職する」が3割(30.7% 男性28.9% 女性32.3%)を占めている。「就職しても、嫌になったらすぐにやめたほうがよい」は9.0%(男性7.7% 女性10.3%)と低値である。



望む会社でなくとも正規の仕事が得られれば、妥協しても就職する	30.7	28.9	32.3
就職する会社は、規模が大きいほうがよい	21.6	23.3	20.0
就職しても、嫌になったらすぐにやめたほうがよい	9.0	7.7	10.3

参考資料

大卒数(万人)	就職数(万人)		進学数(万人)		A+Bの比率			
	就職数	就職率	進学数	進学率	一時的就業者A(万人)	それ以外B(万人)	A+Bの比率	
1955	9.5	7.0	73.7%	0.8	8.6%		0.7	
1965	16.2	13.5	83.4%	1.1	6.8%		0.7	
1975	31.3	23.3	74.3%	1.8	5.7%		3.1	
1985	37.3	28.8	77.2%	2.9	7.8%		3.3	
1991	42.8	34.8	81.3%	3.0	7.0%	0.3	2.2	6.0%
1992	43.8	35.0	79.9%	3.3	7.6%	0.4	2.5	6.6%
1993	44.6	34.0	76.2%	3.7	8.5%	0.5	3.2	8.3%
1994	46.2	32.5	70.5%	4.4	9.5%	0.8	5.2	13.0%
1995	49.3	33.1	67.1%	4.6	9.4%	0.9	6.8	15.6%
1996	51.3	33.8	65.9%	5.5	10.7%	1.1	8.0	17.7%
1997	52.5	34.9	66.6%	5.5	10.4%	1.1	8.0	17.3%
1998	53.0	34.8	65.6%	5.6	10.6%	1.2	8.2	17.7%
1999	53.2	32.0	60.1%	6.0	11.4%	1.6	10.6	22.9%
2000	53.9	30.1	55.8%	6.4	11.8%	2.3	12.1	26.7%
2001	54.6	31.2	57.3%	6.5	12.0%	2.2	11.6	25.3%
2002	54.8	31.1	56.9%	6.7	12.2%	2.3	11.9	25.9%
2003	54.5	30.0	55.0%	7.0	12.9%	2.5	12.3	27.1%
2004	54.9	30.6	55.8%	8.5	15.5%	2.5	11.0	24.6%
2005	55.1	32.9	59.7%	8.6	15.6%	2.0	9.8	21.3%
2006	55.8	35.6	63.7%	8.9	15.9%	1.7	8.2	17.7%

2006年度学校基本調査速報(文部科学省 2006年8月公表)によると、2006年3月の大学卒業者のうち就職率63.7%、進学率15.9%の合計は79.6%。いわゆる「フリーター」(一時的な職)は3.0%、それ以外(ニートを含む)は14.7%である。2005年から2年連続して就職率・進学率は上昇した。これは景気回復と若年層の人口減、団塊世代層の定年が重なり、新卒求人倍率も高まったことによる。問題視されていた若年層雇用問題は改善の兆しが見受けられる。

それに伴うように07年新成人の仕事観は総体的に意欲が感じられない。

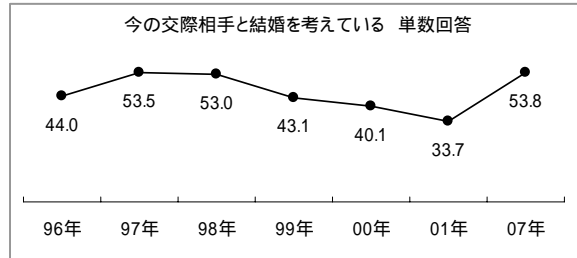
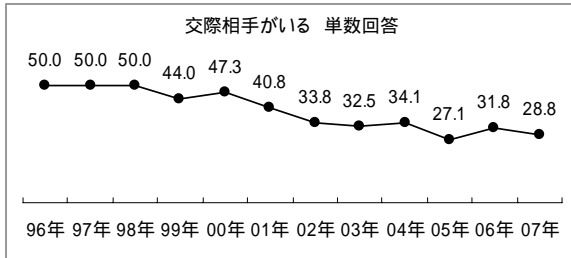
2004年時点、新卒者が3年以内に離職する割合は高くなっているが(2002年新卒者の離職1年目15.0% 2年目10.8% 3年目8.9% 合計34.7% 厚生労働省 職業安定局業務統計)、新卒求人倍率が高まると予想される今後は、離職者も減少すると思われる。

今調査でも、「正規の仕事が得られれば、妥協しても就職」、「嫌になったらすぐにやめたほうがよいと思わない」など堅実に就職する若者像が見られ、適職探しで揺れる若者は減少するのではないかと推測される。

## 2007年新成人の恋愛意識

### 交際相手がいる 28.8% その相手と結婚したい 53.8% (28.8%のうち) 交際状況は低下 交際満足度は上昇

07年新成人(587人)に交際相手について聞いたところ、全体の28.8%(男性23.2% 女性34.0%)が「現在交際相手がいる」と回答した。過去12年間の新成人の交際状況推移はグラフの通りで、かつては50%から40%台で推移していたが、2002年からは30%から20%台と低下している。



しかしながら、「現在交際相手がいる」回答者(169人 男性67人 女性102人)に、その相手との結婚意向を聞くと53.8%が「結婚したいと思っている」(男性47.8% 女性57.8%)と回答。これは過去最高値である(2002年から2006年まではデータなし)。

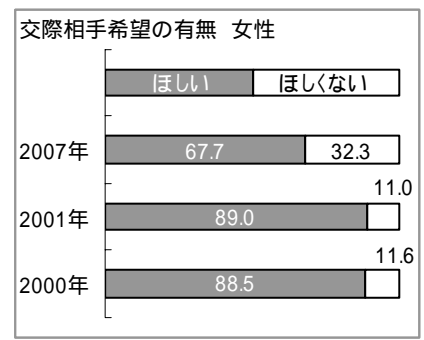
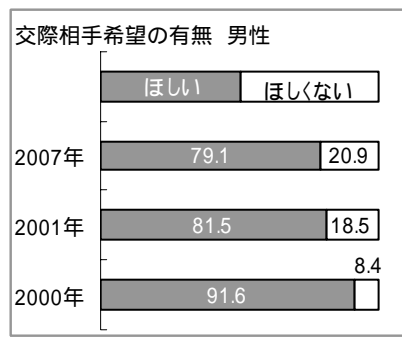
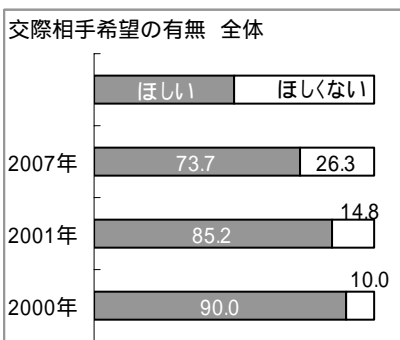
交際相手がいる割合も、交際相手と結婚を考えている割合も男性よりも女性のほうが高い傾向は変わらない。

	交際相手がいる %			その交際相手と結婚を(交際相手がいる人対象) %									交際相手がいらない%		
	全体	男性	女性	したい			したくない			考えていない			全体	男性	女性
				全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性			
<b>2007年新成人</b>	28.8	23.2	34.0	53.8	47.8	57.8	4.1	4.5	3.9	42.0	47.8	38.2	71.2	76.8	66.0
2006年新成人	31.8	25.6	38.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68.2	74.4	62.0
2005年新成人	27.1	22.6	31.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72.9	77.4	68.4
2004年新成人	34.1	26.6	41.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	65.9	73.4	58.1
2003年新成人	32.5	23.0	42.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67.5	77.0	58.0
2002年新成人	33.8	29.5	38.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.2	70.5	62.0
2001年新成人	40.8	40.5	41.0	33.7	25.9	41.5	11.7	12.3	11.0	54.6	61.7	47.6	59.2	59.5	59.0
2000年新成人	47.3	46.5	48.0	40.1	31.2	49.0	7.4	4.3	10.4	52.6	64.5	40.6	52.7	53.5	52.0
1999年新成人	44.0	38.0	50.0	43.1	42.1	44.0	7.3	10.5	4.0	49.7	47.4	52.0	56.0	62.0	50.0
1998年新成人	50.0	49.0	51.0	53.0	46.9	58.8	47.0	53.1	41.2	-	-	-	50.0	51.0	49.0
1997年新成人	50.0	48.0	51.0	53.5	52.1	54.9	46.5	47.9	45.1	-	-	-	50.0	52.0	49.0
1996年新成人	50.0	50.0	50.0	44.0	40.0	48.0	56.0	60.0	52.0	-	-	-	50.0	50.0	50.0

### 交際相手募集も低下

交際相手がいらない418人(男性220人 女性198人)のうち、73.7%(男性79.1% 女性67.7%)は「交際相手がほしい」と回答している。2000年新成人(90.0% 男性91.5% 女性88.5%)、2001年新成人(85.2% 男性81.5% 女性89.0%)と比較すると、「交際相手がほしい」割合は低下している。

特に「交際相手はほしくない」女性は3割を超えた(26.3% 男性20.9% 女性32.3%)。



**交際相手がほしい理由は、いれば楽しい 81.5% ほしくない理由は、自分ひとりで楽しい 66.4%**

ほしい理由は、「いれば楽しい」(81.5% 男性 81.6% 女性 81.3%)。次いで女性は「いると自分が向上する」(46.4% 男性 50.0% 女性 41.8%)となった。

男性では「好きな異性と一緒にいたい」(42.9% 男性 51.1% 女性 32.1%)、「いると自分が向上する」、「異性に興味がある」(37.0% 男性 48.3% 女性 22.4%)も目立っている。

ほしくない理由としては、「自分ひとりで楽しい」(66.4% 男性 69.6% 女性 64.1%)、「他のことに時間を割きたい」(65.5% 男性 65.2% 女性 65.6%)、「他にお金を使いたい」(52.7% 男性 63.0% 女性 45.3%)である。

交際相手がほしくない理由の3位に経済面があげられた。20代・30代の「結婚しない理由」と同様の傾向である。

交際相手がほしくない理由 (複数回答 %)	2007年新成人			交際相手がほしい理由 (複数回答 %)	2007年新成人		
	全体	男性	女性		全体	男性	女性
調査対象者	587人	287人	300人	調査対象者	587人	287人	300人
▽そのうち、交際相手がいない	418人	220人	198人	▽そのうち、交際相手がいない	418人	220人	198人
▽そのうち、交際相手がほしいと思わない	110人	46人	64人	▽そのうち、交際相手がほしいと思う	308人	174人	134人
自分ひとりで楽しいから	66.4	69.6	64.1	いれば楽しい	81.5	81.6	81.3
学業や仕事が忙しいから	42.7	41.3	43.8	いると自分が向上する	46.4	50.0	41.8
他のことに時間を割きたいから	65.5	65.2	65.6	好きな異性といつも一緒にいたい	42.9	51.1	32.1
他にお金を使いたいから	52.7	63.0	45.3	いないとさびしい	37.7	37.9	37.3
同性の友だちと一緒にのほうが今は楽しいから	31.8	30.4	32.8	親を安心させたい	7.1	6.3	8.2
交際相手を作ると他の異性と付き合えない	4.5	4.3	4.7	異性に興味がある	37.0	48.3	22.4
人と付き合うのが苦手だから	29.1	32.6	26.6	早く結婚したい	12.3	8.0	17.9
親や兄弟と一緒にのほうが楽しいから	9.1	6.5	10.9	いないと格好悪い	11.0	13.8	7.5
異性が嫌い	14.5	6.5	20.3	友だちに自慢したい	8.4	10.9	5.2
結婚したいと思わないから	24.5	23.9	25.0	交際相手がいないことにマイナスを感じる	21.4	23.0	19.4
振られて傷つくのが怖い	15.5	17.4	14.1	周りの友人と話が合わない	3.6	2.3	5.2
その他	8.2	4.3	10.9	その他	2.3	0.6	4.5

**交際相手と出会う努力 何をしたらよいか分からない**

07年新成人(587人)の交際相手がいる人は169人(男性67人 女性102人)。交際相手と出会った場所は、「今在籍している学校・職場または卒業した学校」が46.1%を占める(男性52.3% 女性42.2%)。

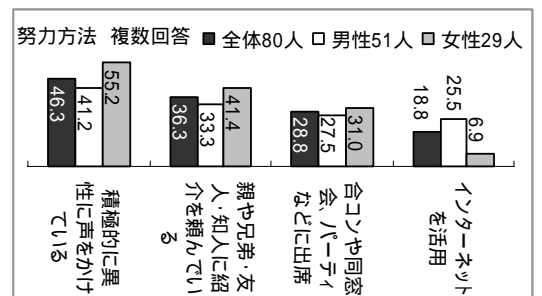
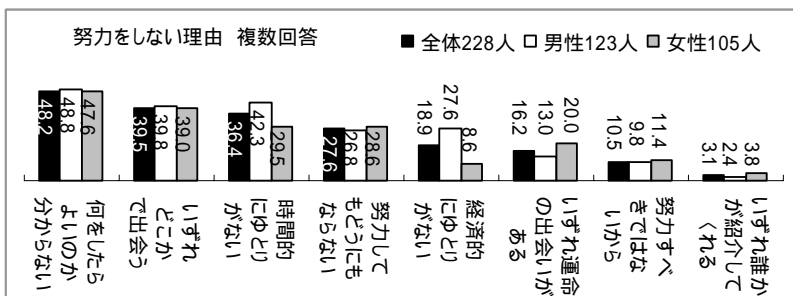
では、交際相手募集中の人(308人 男性174人 女性134人)はどこで出会うつもりなのか。彼らのなかで、出会う努力をしているとの回答は26.0%であった(男性 29.3% 女性 21.6%)。

努力をしている彼ら(80人 男性51人 女性29人)は「積極的に異性に声をかける」(46.3% 男性 41.2% 女性 55.2%)など若者らしい方法をとっている。

努力をしていないとの回答者は74.0%(男性70.7% 女性78.4% 228人 男性123人 女性105人)。

その理由は「何をしたらよいか分からない」(48.2% 男性 48.8% 女性 47.6%)である。

男性では、「時間的にゆとりがない」(36.4% 男性 42.3% 女性 29.5%)、「経済的にゆとりがない」(18.9% 男性 27.6% 女性 8.6%)も目立つ。



## 交際相手には安心感を求める 75.0%

07年新成人(587人)の交際相手に求めることは男女ともに、「一緒にいると安心感を与えていること」(75.0% 男性64.5% 女性85.0%)、「自分とフィーリングが合うこと」(67.6% 男性63.4% 女性71.7%)、「気軽におしゃべりができること」(67.0% 男性62.4% 女性71.3%)が上位3項目である。10年前の1997年新成人、5年前の2002年新成人の回答を見ても、これらの順位は変わらない。

特に女性は「安心感」を強く求めている。さらに「学業・進路・仕事の相談にのってくれること」(28.6% 男性18.1% 女性38.7%)、「自分を一番好きでいてくれること」(55.2% 男性46.3% 女性63.7%)、「自分の欠点やいたらないことを指摘してくれること」(41.4% 男性34.5% 女性48.0%)など、相手に頼りがいを求める面も現れている。

交際相手に求めること(複数回答)	2007年新成人			2002年新成人			1997年新成人		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
	587人	287人	300人	400人	200人	200人	200人	100人	100人
一緒にいると安心感を与えてくれること	75.0	64.5	85.0	83.8	80.0	87.5	67.0	60.0	74.0
自分とフィーリングが合うこと	67.6	63.4	71.7	72.8	65.5	80.0	61.5	65.0	58.0
気軽におしゃべりが出来ること	67.0	62.4	71.3	68.8	64.5	73.0			
自分のことを一番好きでいてくれること	55.2	46.3	63.7	65.8	58.0	73.5			
一緒に遊びに行けること	54.5	49.5	59.3	61.8	55.5	68.0	19.0	24.0	14.0
自分を楽しませてくれること	53.0	43.6	62.0	61.5	55.0	68.0	27.5	26.0	29.0
自分に刺激を与えてくれること	43.8	38.3	49.0	51.0	43.5	58.5	16.0	18.0	14.0
自分をレベルアップさせてくれること	41.4	34.8	47.7	53.3	44.5	62.0			
自分の欠点やいたらないことを指摘してくれること	41.4	34.5	48.0	46.0	40.5	51.5			
同じ趣味をもっていること	37.0	31.0	42.7	36.5	33.5	39.5	17.0	18.0	16.0
一緒に食事ができること	35.4	30.0	40.7	41.0	40.0	42.0			
誕生日や季節イベントと一緒に過ごすこと	34.2	28.2	40.0	47.8	44.5	51.0			
学業・進路・仕事の相談にのってくれること	28.6	18.1	38.7	35.0	26.5	43.5			
一緒に未来を夢見ること	23.5	16.4	30.3	23.3	21.5	25.0			
外見・スタイルが良いこと	19.4	24.0	15.0	19.8	22.5	17.0	14.5	22.0	7.0
ファッションセンスが良いこと	13.8	10.5	17.0	20.3	18.0	22.5	6.0	7.0	5.0
周囲の人に自慢できること	13.1	13.6	12.7	12.5	14.0	11.0	5.0	7.0	2.0
経済的負担を軽減してくれること	12.1	6.3	17.7	6.8	3.0	10.5	1.0	7.0	2.0

## やさしいと見られたい男性 安心感があると見られたい女性

07年新成人(587人)は、異性にどのように見られたいと思っているのか。「やさしい」(48.7% 男性54.7% 女性43.0%)、「安心できる、癒し感がある」(41.9% 男性26.5% 女性56.7%)が上位である。

異性からどのように見られたいか 全体 587人(複数回答)

1位	やさしい	48.7	11位	責任感がある	8.2
2位	安心できる 癒し系	41.9	12位	おしゃれ	6.8
3位	頼りがいがある	25.6	13位	上品	6.1
4位	誠実	24.0	13位	外見がいい	6.1
5位	明るい	19.6	15位	堅実	4.6
6位	おもしろい	19.1	16位	仕事ができる	4.3
7位	冷静・落ち着いている	16.7	17位	健康的 体力がある	3.1
8位	教養がある	12.4	17位	友だちが多い	3.1
9位	頭がいい	10.9	19位	リーダーシップがある	1.5
10位	おとなである	9.5	20位	経済的に豊か	1.5

異性からどのように見られたいか(複数回答) 上位9項目

男性287人		女性300人	
やさしい	54.7	安心できる 癒し系	56.7
頼りがいがある	36.9	やさしい	43.0
安心できる 癒し系	26.5	明るい	30.0
誠実	26.5	誠実	21.7
おもしろい	20.6	おもしろい	17.7
冷静・落ち着いている	17.8	冷静・落ち着いている	15.7
頭がいい	12.5	頼りがいがある	14.7
おとなである	12.2	教養がある	14.7
教養がある	10.1	頭がいい	9.3

男性は「やさしい」が半数を超え、「頼りがいがある」、「安心できる 癒し感がある」、「誠実」と続く。  
女性は「安心できる 癒し感がある」が半数を超えた。次いで「やさしい」、「明るい」であった。

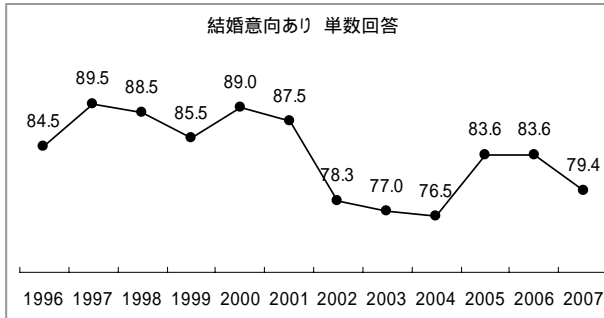
交際相手に求めることは男女ともに「安心感」であった。女性は自らも安心できる女性でありたいと思っている。また、女性は男性に「頼りがい」を求める傾向が窺えたが、男性は、「自分は頼りがいがあるように見られたい」との項目を2番目にあげており、相手の求めることと自らが見られたい項目がやや一致している。

## 2007年新成人の結婚意識

### 結婚したい 79.4% 結婚意向は減少

新成人(578人)の79.4%が「早く」または「いずれは」結婚したいと考え(男性80.8% 女性78.0%)、「結婚はしたくない」との回答は20.6%であった(男性19.2% 女性22.0%)。

2005年、2006年は83.9%と結婚願望(早く+いずれは結婚したい)は高まっていたが、07年新成人は減少した。



	結婚意向あり			結婚意向あり	
	男性	女性		男性	女性
2007	80.8	78.0	2001	86.0	89.0
2006	83.3	83.7	2000	89.5	88.5
2005	84.5	82.6	1999	82.0	89.0
2004	76.0	77.0	1998	88.0	89.0
2003	77.0	77.0	1997	86.0	93.0
2002	73.0	83.5	1996	81.0	88.0

### 早く結婚したい 19.6% 結婚したくない 20.6% ともに昨年よりは高まる

「早く結婚したい」と思っている率は06年の16.5%から3.1ポイント上昇し、2005年とほぼ同値となった(19.6% 男性16.7% 女性22.3%)。

2003年の12.0%から「早婚意識」は上昇をしてきたが、06年新成人は低下した。しかし、今年、07年新成人は、「早婚意識」が復活した。

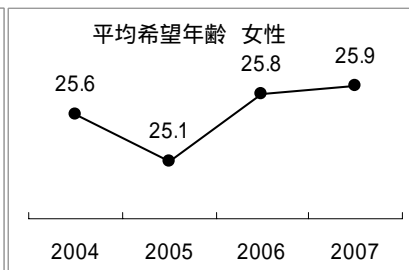
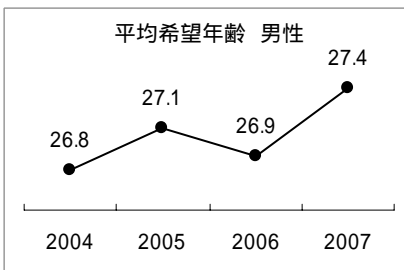
一方「結婚したくない」という「非婚意識」も2割台と高まった。早婚意識も非婚意識も男性と比較して女性のほうが高い。

全体	早く結婚	いずれは結婚	早く+いずれはの計	結婚はしたくない
2007年 n=587	19.6	59.8	79.4	20.6
2006年 n=256	16.5	67.1	83.6	16.5
2005年 n=310	19.7	63.9	83.6	16.5
2004年 n=302	18.9	57.6	76.5	23.5
2003年 n=400	12.0	65.0	77.0	23.0
男性	早く結婚	いずれは結婚	早く+いずれはの計	結婚はしたくない
2007年 n=287	16.7	64.1	80.8	19.2
2006年 n=256	14.3	69.0	83.3	16.7
2005年 n=155	15.5	69.0	84.5	15.5
2004年 n=154	16.9	59.1	76.0	24.0
2003年 n=200	13.0	64.0	77.0	23.0
女性	早く結婚	いずれは結婚	早く+いずれはの計	結婚はしたくない
2007年 n=300	22.3	55.7	78.0	22.0
2006年 n=256	18.6	65.1	83.7	16.3
2005年 n=155	23.9	58.7	82.6	17.4
2004年 n=148	20.9	56.1	77.0	23.0
2003年 n=200	11.0	66.0	77.0	23.0

### 新成人の平均結婚希望年齢は 男性27.4歳、女性25.9歳

結婚の意思を持つ新成人466人(男性232人 女性234人)の「希望結婚年齢」については、男性も女性も「25歳」(21.7% 男性22.8% 女性20.5%)が最高値であった。

平均すると、彼らの結婚希望年齢は男性27.4歳、女性25.9歳。早婚意識は高まったが、結婚希望年齢は上昇した。

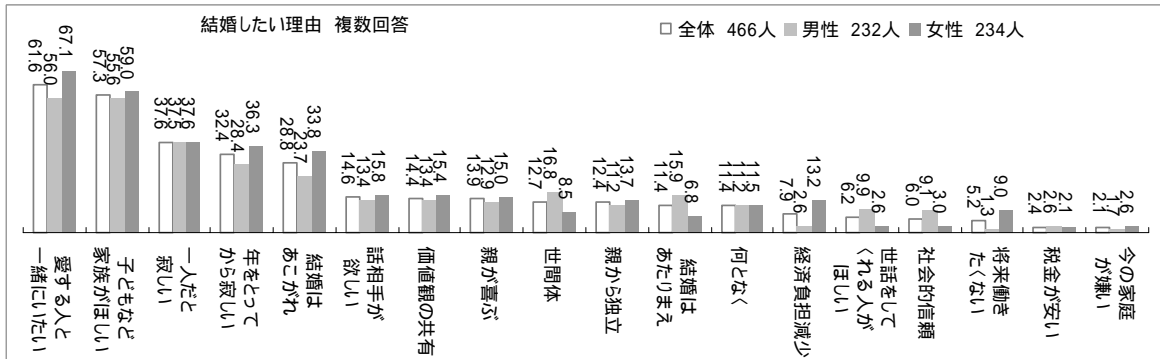


2005年人口動態統計(厚生労働省2006年公表)によると、2005年の平均初婚年齢は男性29.8歳、女性28.0歳である。単純に比較すると、2007年新成人の平均結婚希望年齢は男性2.4歳、女性2.1歳、下回っている。

### 結婚したい理由 親から独立したい 12.4%

結婚の意思を持つ新成人 466 人(男性 232 人、女性 234 人)を対象に聞いた結婚したいと思う理由(複数選択)では、「愛する人と一緒にいたいから」61.6%(男性 56.0%、女性 67.1%)、「子どもなど家族がほしいから」57.3%(男性 55.6% 女性 59.0%)が上位である。この上位 2 項目は 04 年から不動である。

今回新設の項目「親からの独立」は、1 割強が結婚したい理由にあげた(12.4% 男性 11.2% 女性 13.7%)。



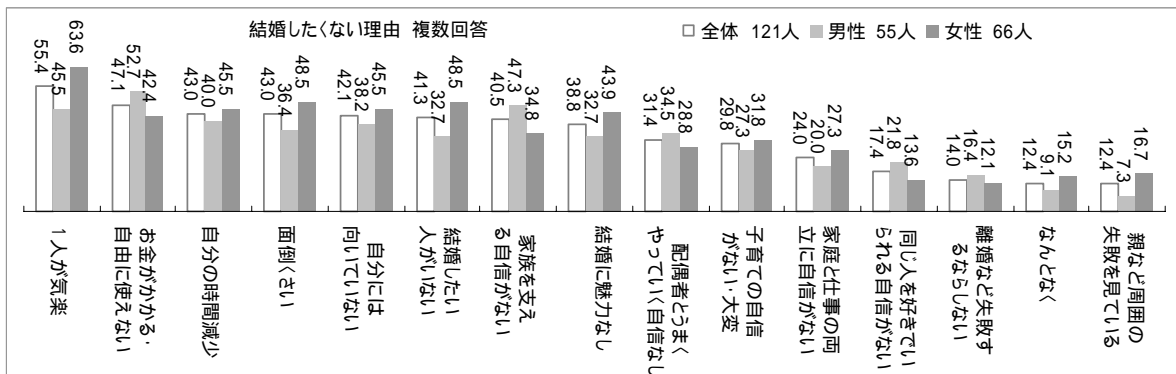
### 安心感 フィーリングは言うまでもなく大切なこと 加えて結婚相手は自分のことを一番好きでいてくれる

結婚相手と交際相手に求めることの上位項目はさほど変わらない。「自分のことを一番好きでいてくれること」が女性で高い(61.4% 男性 49.6% 女性 73.1%)。

結婚相手に求めること			2007年新成人相手に求めること(複数回答)				交際相手に求めること			
順位	全体	男性	女性	項目	全体	男性	女性	順位		
1位	77.7	68.5	86.8	一緒にいると安心感を与えてくれること	75.0	64.5	85.0	1位		
2位	62.7	57.8	67.5	自分とフィーリングが合うこと	67.6	63.4	71.7	2位		
3位	61.4	49.6	73.1	自分のことを一番好きでいてくれること	55.2	46.3	63.7	4位		
4位	53.0	48.3	57.7	気軽にしゃべりが出来ること	67.0	62.4	71.3	3位		
5位	48.7	42.7	54.7	自分を楽しませてくれること	53.0	43.6	62.0	6位		
6位	48.5	43.5	53.4	一緒に遊びに行けること	54.5	49.5	59.3	5位		
7位	44.8	34.5	55.1	自分の欠点やいやなことを指摘してくれること	41.4	34.5	48.0	9位		
8位	42.1	33.6	50.4	一緒に食事ができること	35.4	30.0	40.7	11位		
9位	41.4	30.6	52.1	誕生日や季節イベントを一緒に過ごすこと	34.2	28.2	40.0	12位		
10位	41.0	35.8	46.2	自分に刺激を与えてくれること	43.8	38.3	49.0	7位		
11位	40.8	34.1	47.4	自分をレベルアップさせてくれること	41.4	34.8	47.7	8位		
12位	39.1	32.8	45.3	同じ趣味をもっていること	37.0	31.0	42.7	10位		
13位	37.1	25.0	49.1	一緒に未来を夢見ること	23.5	16.4	30.3	14位		
14位	30.7	18.5	42.7	学業・進路・仕事の相談にのってくれること	28.6	18.1	38.7	13位		
15位	22.1	4.3	39.7	経済的負担を軽減してくれること	12.1	6.3	17.7	18位		
16位	17.8	22.4	13.2	身の回りの世話をしてくれること	-	-	-	-		
17位	12.7	16.8	8.5	外見・スタイルが良いこと	19.4	24.0	15.0	15位		
18位	11.2	9.9	12.4	周囲の人に自慢できること	13.1	13.6	12.7	17位		
19位	10.1	8.2	12.0	ファッションセンスが良いこと	13.8	10.5	17.0	16位		

### 結婚をしたくない理由 男性はお金と自信のなさ 女性はひとりのほうが気楽

結婚をしたくないと思っている新成人 121 人(男性 55 人、女性 66 人)にその理由を聞いたところ、男性は「お金がかかる・自由に使えない」(47.1% 男性 52.7% 女性 42.4%)、「家族を支える自信がない」(40.5% 男性 47.3% 女性 34.8%)である。女性は「ひとりのほうが気楽」が6割以上(55.4% 男性 45.5% 女性 63.6%)。次いで「面倒」(43.0% 男性 36.4% 女性 48.5%)、「結婚したい相手がいない」(41.3% 男性 32.7% 女性 48.5%)などと、結婚そのものに興味がない理由をあげている。



## 2007年新成人の恋愛と結婚に関する意識

### 恋愛は重要 63.2%

新成人は「恋愛は重要」と思っている(63.2% 男性 66.6% 女性 60.0%)。しかし「今は異性との交際に積極的ではない」(49.9% 男性 53.3% 女性 46.7%)。

「交際相手には束縛されたくない」と、女性の半数が回答した(45.5% 男性 40.8% 女性 50.0%)。

「異性と話すとき、緊張して話ができない」は4人に1人以上が回答(26.6% 男性 28.2% 女性 25.0%)。対人関係に繊細な彼らの特質が窺える。

恋愛について 複数回答	全体	男性	女性	恋愛について 複数回答	全体	男性	女性
	587人	287人	300人		587人	287人	300人
恋愛は重要である	63.2	66.6	60.0	今後は異性との交際を積極的にしたい	23.0	25.1	21.0
今の自分は異性との交際に積極的ではない	49.9	53.3	46.7	交際相手になる人は結婚を想定して選びたい	21.1	16.0	26.0
交際相手に束縛されたくない	45.5	40.8	50.0	好きな人ができたら自分から告白する	20.1	23.3	17.0
交際相手の浮気は許せない	41.9	31.7	51.7	交際相手ができたら親に紹介する	15.0	9.4	20.3
交際相手には、追いかけるより追いかけてほしい	38.0	34.8	41.0	同性の友人よりも異性の友人といるほうが楽しい	11.1	9.1	13.0
同世代の女性のほうが男性よりも恋愛に積極的	28.1	25.8	30.3	合コンやパーティには積極的に参加したい	10.4	12.9	8.0
異性と話すとき、緊張して話ができなくなる	26.6	28.2	25.0	合コンは、交際相手を想定して参加する	3.4	2.1	4.7
交際相手は自分と同じような環境の人がいい	25.6	26.1	25.0	合コンに積極的に参加している	1.7	1.4	2.0
交際相手と別れても友達として付き合える	23.7	22.0	25.3	合コンをきっかけに交際が始まったことがある	1.7	1.4	2.0

### 結婚することにメリットを感じる 67.0%

新成人は現時点で「結婚」をどのように捉えているのか。全員(587人)に結婚生活に関する意識・行動について項目をあげて聞いた。

「結婚することにメリットを感じる」新成人は67.0%(男性68.3% 女性65.7%)。彼らは、「結婚生活に対してわずかながらイメージしている」(62.4% 男性53.3% 女性71.0%)と、必ずしも結婚を否定したり、遠い先のことと思っているわけではない。しかしながら、「結婚できないのではないかと感じる」2007年新成人は65.9%もいる(男性62.0%、女性69.7%)。

### 恋愛と結婚とは違う 40.9%

今回「恋愛と結婚とは違う」(40.9% 男性37.3% 女性44.3%)を肯定する割合が低下した。恋愛に関する考え方でも、「交際相手は自分と同じような環境の人がいい」と25.6%(男性26.1% 女性25.0%)、「交際相手になる人は結婚を想定して選びたい」21.1%(男性16.1% 女性26.0%)が比較的高いことから、恋愛も結婚の延長として捉えているようだ。

結婚に関する意見	全体				男性				女性			
	07年	06年	05年	04年	07年	06年	05年	04年	07年	06年	05年	04年
はい、いいえ、わからないの選択肢で「はい」の割合	587人	516人	310人	302人	287人	155人	258人	154人	300人	155人	258人	148人
結婚することにメリットを感じている	67.0	73.3	70.3	66.2	68.3	75.6	70.3	69.5	65.7	70.9	70.3	62.8
結婚できないのではないかと不安	65.9	67.1	67.1	60.6	62.0	62.8	62.6	55.8	69.7	71.3	71.6	65.5
将来結婚しなくても暮らしていける	65.8	69.8	71.6	66.6	62.7	71.3	74.8	67.5	68.7	68.2	68.4	65.5
結婚生活をわずかながらイメージしている	62.4	68.4	70.6	58.3	53.3	65.1	69.0	56.5	71.0	71.7	72.3	60.1
何よりも家庭を第一に考えたい	49.2	67.2	62.3	55.0	52.6	69.4	60.6	57.1	46.0	65.1	63.9	52.7
家庭の経済的生活を支える責任は夫にある	44.3	41.7	47.4	39.1	58.5	56.2	64.5	52.6	30.7	27.1	30.3	25.0
恋愛と結婚とは違う	40.9	61.8	61.6	59.9	37.3	65.1	57.4	57.1	44.3	58.5	65.8	62.8
結婚相手の収入で生活の豊かさが決まる	36.8	38.4	38.7	33.1	22.0	24.4	27.1	18.2	51.0	52.3	50.3	48.6
結婚しても嫌になったら離婚すればよい	27.3	23.4	32.6	30.5	19.2	20.2	25.2	27.9	35.0	26.7	40.0	33.1
結婚しないと一人前とは言えない	10.9	9.9	6.8	7.3	13.9	11.2	11.6	9.7	8.0	8.5	1.9	4.7

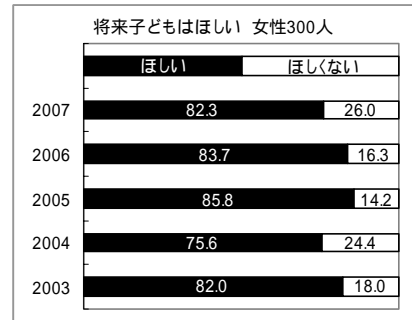
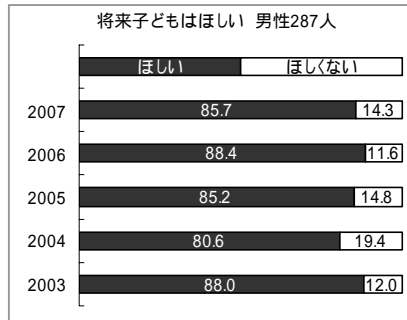
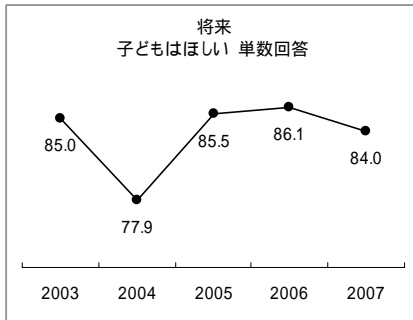
## 2007年新成人の子ども観

### 将来子どもがほしいと思う 84.0%

子どもについて、新成人はどのような意識を持っているのか。

新成人 587 人に「将来子どもがほしいと思うか」を聞いたところ、84.0%がほしいと回答(男性:85.7% 女性82.3%)。

2006年の86.1%から5.1ポイント下回る結果となった。



### 希望子ども数の平均は男性2.31人 女性2.17人

将来子どもがほしいと考える新成人 493 人(男性246人 女性247人)。さらに明確に子どもの人数をイメージしている新成人は 347 人(男性 178 人、女性 169 人)を対象とする彼らの平均希望子ども数は男性 2.31 人、女性 2.17 人であった。

<2007年新成人の希望子ども数>							
	n	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均子ども数
男性	178人	4.5%	36.2%	18.8%	2.4%	0.0%	2.31人
女性	169人	5.7%	37.3%	11.3%	2.0%	0.0%	2.17人
<2005年新成人の希望子ども数>							
	n	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均子ども数
男性	132人	11.4%	70.5%	15.9%	1.5%	0.8%	2.10人
女性	133人	8.3%	67.7%	20.3%	3.0%	0.8%	2.20人
<2004年新成人の希望子ども数>							
	n	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均子ども数
男性	124人	4.8%	78.2%	15.3%	0.0%	1.6%	2.15人
女性	111人	2.7%	81.1%	13.5%	1.8%	0.9%	2.17人

### 子どもを守るのは親の責任 91.3%

新成人 587 人に、子どもについてのさまざまな意見をあげて、どのように思うかを聞いた。

彼らは「子どもを守るのは親の責任」91.3%と圧倒的に支持している。「育児は夫婦で分担するのが当然」、「子どものためならできる限りのことをしたい」、「子どもが小さいうちは、絶対に離婚すべきでない」、「子どもは夫婦の絆を強くする」などが上位にあがり、子どもへの愛情が注がれる傾向が強い。

「子どもを産み、育てるには経済的負担がおおきい」は 79.2%。経済的不安はここにも現れている。

子どもに関する意見	全体	男性	女性	子どもに関する意見	全体	男性	女性
はい、いいえ、わからないの選択肢で「はい」の割合	587人	300人	300人	はい、いいえ、わからないの選択肢で「はい」の割合	587人	300人	300人
子どもを守るのは親の責任だ	91.3	89.2	93.3	子どもをつくるならなるべく若いうちにつくりたい	60.0	58.5	61.3
子どもを産み、育てるには経済的負担がおおきい	79.2	72.1	86.0	自分は子ども好きだ	57.8	59.2	56.3
育児は夫婦で分担するのが当然だ	76.5	72.8	80.0	子どもには受験で苦しませたくない	50.8	46.7	54.7
子どものためならできる限りのことをしたい	75.5	74.9	76.0	子どもができたなら男性も育児休暇をとるべきだ	50.3	51.2	49.3
子どもが小さいうちは、絶対離婚すべきではない	71.7	76.3	67.3	子どもは厳しくしつけたい	31.9	33.4	30.3
子どもは夫婦の絆を強くする	70.5	72.1	69.0	子どもはできるだけ早く親の手から離させたい	25.2	23.3	27.0
子どもを産み、育てるには時間的負担がおおきい	69.8	59.9	79.3	血がつながらない子どもでも欲しいと思う	25.0	23.7	26.3
子どもを育てるためには自己犠牲は仕方がない	65.6	64.8	66.3	子どもには自分よりいい学校に行かせたい	23.7	26.5	21.0
子どもを産み、育てるには精神的負担がおおきい	64.4	57.5	71.0	自分が年をとったら子どもと同居したい	18.2	21.3	15.3
子どもは社会の宝だと思う	64.2	62.7	65.7	結婚はしなくても子どもだけはほしい	15.3	11.5	19.0

## 2007 年新成人の今の気持ちと未来

### 格差はあってもよい 男性 54.4% 女性 26.7%

07 年新成人(587 人)に、今の気持ちを聞いたところ、「日本の文化は好きである」と 81.3%が回答した。「日本が好き」67.1%、「日本の歴史には誇りや愛着がある」61.0%も、多少下がるものの高い。しかし、「日本の政治」はうまくいっている」は 3.2%と評価が低い。

「格差はあってもよい」は男性の 54.4%が答えた。女性は 26.7%で、男女差が大きい。

「今の世の中は男性が頼りない」は 55.4%。「今の世の中は女性のほうが強い」は 46.3%。男性の頼りなさが目立つよう

現在の気持ち	全体	男性	女性	今の日本についての問題点	全体	男性	女性
はい いいえ わからないの選択肢で「はい」の回答	587人	287人	300人	複数回答	587人	287人	300人
日本の文化は好きである	81.3	79.8	82.7	良い政治が行われていない	60.3	55.7	64.7
近所づきあいは気持ちよく暮らすためには必要である	72.7	70.0	75.3	親の、子どもへの体罰・暴力が多いこと	55.4	43.9	66.3
日本が好きである	67.1	70.0	64.3	環境破壊が進んでいること	53.7	44.3	62.7
環境問題に関心がある	63.9	61.7	66.0	教育体制が悪いこと	52.5	47.7	57.0
日本の歴史には誇りや愛着がある	61.0	63.1	59.0	善悪よりも自分の損得で行動する人が多いこと	49.7	43.6	55.7
社会の一員だから何か社会のために役に立ちたい	59.6	63.4	56.0	いじめが多いこと	48.7	40.4	56.7
今の世の中は男性が頼りない	55.4	54.4	56.3	社会福祉が遅れていること	48.4	36.6	59.7
非婚・晩婚化傾向には納得できる	54.2	44.9	63.0	貧富の差が大きいこと	45.8	39.4	52.0
現在の日本には若者の自立を支援するシステムがない	49.2	48.4	50.0	少子化が進んでいること	44.5	41.8	47.0
今の世の中は女性のほうが強い	46.3	53.0	40.0	就職が難しいこと	42.2	35.2	49.0
現在の日本は不平等社会で、是正すべきだ	45.5	42.9	48.0	失業が多いこと	42.2	35.9	48.3
現在の日本では大人になることはリスクが大きい	41.7	38.3	45.0	学歴によって収入や仕事に格差があること	39.2	33.8	44.3
格差はあってもよい	40.2	54.4	26.7	女性の地位が男性に比べて低いこと	32.0	18.5	45.0
少子化は、自分の世代よりも上の、20代・30代の責任だ	33.9	39.4	28.7	再チャレンジができないこと	26.2	25.8	26.7
福祉を充実させるには、税金が高くなってもかまわない	33.7	35.9	31.7	離婚が多いこと	23.3	22.0	24.7
ボランティアには積極的に参加したい	33.2	29.3	37.0	外交摩擦が進んでいること	22.8	21.3	24.3
日本の教育体制に納得している	9.9	12.5	7.3	愛国心がないこと	17.2	20.9	13.7
日本の政治はうまくいっていると思う	3.2	4.2	2.3	結婚しない人が多いこと	16.4	18.1	14.7

だ。

### 今の日本の問題は、親の、子どもへの体罰・暴力が多いこと 55.4%

今の日本の問題点では、「良い政治が行われていない」が 60.3%で最上位である。

「教育体制が悪い」は 53.7%。「いじめが多い」は 48.7%であった。いじめと同様、親子間の暴力・体罰等が社会を賑わしているが、52.5%が「親の、子どもへの体罰・暴力が多いこと」を日本の問題点としてあげている。

「学歴によって収入や仕事に格差があること」39.2%、「再チャレンジができないこと」26.2%などはここにあげた項目の中では順位は低く、彼らは社会のせいにしていない様子が窺える。

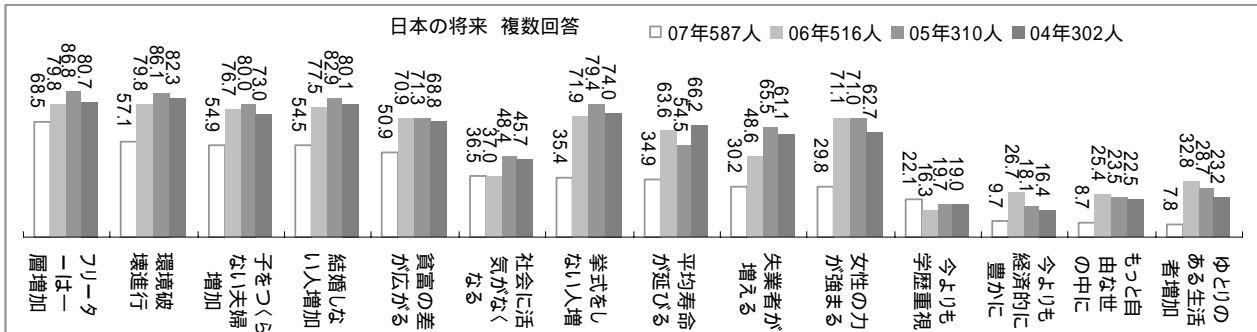
### 親世代は超えられない？

これからの世の中は「変わらない」と 48.7%が回答。新成人らは、「親世代よりも生活が悪くなる」と 39.7%が答えており、親の世代は超えられないと思っている。

これから世の中			あなたの親世代に比べ、今後のあなたの生活			あなたの親世代に比べ、より多くのチャンスに恵まれる機会		
よくなる	変わらない	悪くなる	よくなる	変わらない	悪くなる	よくなる	変わらない	悪くなる
12.3	48.7	39.0	23.3	37.0	39.7	37.6	40.0	22.3

## フリーターはますます増える

今後の日本の社会について、未来予測率が高いのは「フリーターはますます増える」、「環境破壊が進む」、「子どもをつくらない夫婦が多くなる」、「結婚しない人が増える」など。フリーター問題、少子・晩婚化問題など、新成人に直接関わる問題はさらに進むと予想している。



## 25歳の自分 仕事をばりばりしている 47.2%

5年後、25歳になったときにどのような生活をしているのか。「仕事をばりばりしている」47.2%が多かった。「恋愛をしている」は26.1%。「結婚をしている」は女性では23.3%いた。「平凡な生活」は女性の4人に1人(25.0%)が回答。「いろいろなことにチャレンジしている」(20.4%)、「貯蓄に励んでいる」(20.4%)も多かった。

5年後の自分	全体	男性	女性	5年後の自分	全体	男性	女性
3つまで選択回答	587人	287人	300人	3つまで選択回答	587人	287人	300人
仕事をばりばりしている	47.2	49.1	45.3	子どもの親になっている	7.7	5.2	10.0
恋愛をしている	26.1	23.7	28.3	自己投資をしている	7.3	9.4	5.3
平凡な生活をしている	21.5	17.8	25.0	気がつくと、同性の友だちばかりになっている	5.5	8.0	3.0
いろいろなことにチャレンジしている	20.4	19.9	21.0	親と楽しく暮らしている	4.9	3.1	6.7
貯蓄に励んでいる	20.4	19.2	21.7	外国で暮らしている	3.6	2.4	4.7
将来について心配をしている	18.9	18.5	19.3	そろそろ転職を考えている	2.6	2.4	2.7
結婚をしている	17.9	12.2	23.3	失恋ばかりでめげている	2.2	3.5	1.0
自分探しをしている	15.7	15.7	15.7	人もうらやむ“高嶺の花”になっている	1.7	1.4	2.0
学生・学生生活を過ごしている	12.3	15.0	9.7	親の面倒を見ている	1.5	1.7	1.3
しっかりとした立派な大人になっている	12.3	13.9	10.7				

## 人は人、自分は自分 55.7%

マイペース志向が強く、対人関係でも繊細な面を見せる07年新成人の日常生活で心がけていること。「人は人、自分は自分と割り切る」と55.7%が回答した(男性53.3% 女性58.0%)。女性のほうに回答項目が多く、「よく笑う」(40.9% 男性32.4% 女性49.0%)、「嫌な気持ちを持ち続けたい」(43.4% 男性38.7% 女性48.0%)、「くよくよしない」(36.3% 男性32.1% 女性40.3%)が上位にあがった。

日常生活で心がけていること	全体	男性	女性	日常生活で心がけていること	全体	男性	女性
複数回答	587人	287人	300人	複数回答	587人	287人	300人
人は人、自分は自分と割り切る	55.7	53.3	58.0	先のことは考えすぎない	26.1	25.1	27.0
嫌な気持ちをいつまでも持ち続けたい	43.4	38.7	48.0	やりたいことはサッサとやる	25.4	22.3	28.3
よく笑う	40.9	32.4	49.0	人にどう思われるか気にしない	23.9	23.3	24.3
くよくよしない	36.3	32.1	40.3	物事にこだわらない	22.1	20.2	24.0
嫌なことはすぐ忘れるようにする	33.6	28.6	38.3	嫌な気分をためずにすぐに発散させる	21.1	18.8	23.3
いつも明るい気分	32.0	28.9	35.0	いつも自分の気分に逆らわない	18.1	18.1	18.0
少しくらい体調が悪くても気にしない	28.4	27.9	29.0	他人を見てうらやましがらない	16.0	15.3	16.7
他人のことは気にしない	26.7	24.0	29.3				

## 「ことぶき科学情報」バックナンバー 一覧

- VOL.1 1996年01月 「新成人の恋愛・結婚観/団塊ジュニアの意識調査」
- VOL.2 1996年03月 「日本ジューンプライド考現学」
- VOL.3 1996年05月 「団塊ジュニアの出産・育児意識」
- VOL.4 1996年07月 「30代独身男女の恋愛・結婚意識」
- VOL.5 1996年09月 「デジタル世代のコミュニケーション実態調査」
- VOL.6 1996年11月 「マスコミ人による“西暦2000年の結婚・恋愛大予測”」
- 
- VOL.7 1997年01月 「元祖コギャル世代の結婚観」
- VOL.8 1997年03月 「20～30代独身女性の結婚願望調査」
- VOL.9 1997年05月 「20～30代独身サラリーマンの結婚観」
- VOL.10 1997年07月 「独身男女結婚関連用語に関する認知調査」
- VOL.11 1997年09月 「恋人のいる独身男女の恋愛実態調査」
- VOL.12 1997年11月 「団塊ジュニアを子供に持つ親が子供に望む結婚」
- 
- VOL.13 1998年01月 「'98年新成人の新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.14 1998年03月 「高校生の恋愛・勉強・結婚意識」
- VOL.15 1998年05月 「20～50代既婚女性の恋愛意識」
- VOL.16 1998年07月 「20代独身OL・サラリーマン出産・育児意識」
- VOL.17 1998年09月 「20～50代既婚男性の恋愛・結婚意識」
- VOL.18 1998年11月 「30代独身OLの恋愛・結婚意識」
- 
- VOL.19 1999年01月 「'99年新成人の新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.20 1999年03月 「20～30代独身OLの恋愛・結婚意識」
- VOL.21 1999年05月 「20～30代独身サラリーマンの恋愛・結婚意識」
- VOL.22 1999年07月 「20～50代既婚女性の結婚意識」
- VOL.23 1999年09月 「20～50代既婚男性の結婚意識」
- VOL.24 1999年11月 「子供のいる30代・40代既婚女性の子育て意識」
- 
- VOL.25 2000年01月 「西暦2000年新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.26 2000年03月 「20～30代独身OLの恋愛・結婚意識」
- VOL.27 2000年05月 「20～30代独身サラリーマンの恋愛・結婚意識」
- VOL.28 2000年07月 「子供のいる30代・40代既婚男性の子育て意識」
- VOL.29 2000年09月 「20代独身男性・女性のコミュニケーション実態・意識」
- VOL.30 2000年11月 「30～40代離婚経験女性の結婚・恋愛意識」
- 
- VOL.31 2001年01月 「西暦2001年新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.32 2001年03月 「20～30代独身OLの恋愛・結婚意識」
- VOL.33 2001年05月 「20～30代独身サラリーマンの恋愛・結婚意識」
- VOL.34 2001年08月 「25～34歳独身男女の国勢調査結果と結婚意識」
- VOL.35 2001年12月 「居住形態別代独身OLのライフスタイル、恋愛・結婚意識比較調査」
- 
- VOL.36 2002年01月 「西暦2002年新成人新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.37 2002年03月 「25～39歳独身OLを娘に持つ母親の母娘関係実態・意識調査」

- VOL.38 2003年01月 「'03年新成人の新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.39 2004年01月 「'04年新成人の恋愛・結婚・仕事意識」  
 報告書 2004年07月 「日本と韓国の20代・30代独身者1000人の意識」  
 短信 2004年10月 「3大都市圏の独身女性 結婚意識調査」
- VOL.40 2004年12月 「25~39歳独身OLを娘に持つ母親の母娘関係実態・意識調査」
- VOL.41 2005年01月 「'05年新成人の恋愛・結婚・仕事意識」  
 短信 2005年03月 「25~39歳独身男女のプロポーズに関する調査」
- VOL.42 2005年06月 「子供のいる30代・40代既婚男性の子育て意識」  
 短信 2005年10月 「3大都市圏の独身男性 結婚意識調査」
- VOL.43 2006年01月 「'06年新成人の恋愛・結婚・仕事意識」
- VOL.44 2006年03月 「全国20代未婚者 800名の結婚の形調査」  
 短信 2006年05月 「地域別 25~34歳の独身女性 結婚意識調査」
- VOL.45 2006年07月 「全国30代 40代 未婚男性1,200名の結婚意識」  
 短信 2006年10月 「中国地方 25~44歳の独身男性 結婚意識調査」
- VOL.46 2006年11月 「全国30代 40代 未婚女性1,150名の結婚意識」
- VOL.47 2007年01月 「'07年新成人の恋愛・結婚意識」

## 「O net Marriage Report」バックナンバー 一覧

- 2005.11 秋のブライダルシーズンって本当？
- 2005.12 建国40周年のシンガポール 少子化対策への挑戦の軌跡
- 2006.01 「結婚学」白書発刊記念発表会 少子化と結婚シンポジウム
- 2006.02 恋愛結婚 - 結婚市場の自由競争時代のなかで、恋愛結婚は自由なのか、不自由なのか -
- 2006.03 3月は別れの季節 - 離婚 -
- 2006.04 均等法20年 働く女性
- 2006.05 「少子化時代の結婚産業の在り方に関する研究会」報告書発表
- 2006.06 姉さん女房大研究
- 2006.08 「若者」の年齢 「結婚」の年齢
- 2006.09 高齢社会日本のシニア層
- 2006.10 - 出生 -
- 2006.11 挙式件数の行方
- 2006.12 交際相手と結婚との気になる関係

バックナンバーについてのお問い合わせは、株式会社オーエムエムジー 渉外広報室 までお願いいたします。

TEL:03 5413 9808 FAX:03 5413 9818 E-mail:press@onet.co.jp URL <http://www.onet.co.jp>